

『安倍首相から「日本」を取り戻せ!!』

2015年04月08日

3月27日の「報道ステーション」を興味津々に聞いた。ニュースキャスターの古舘伊知郎氏がコメンテーターの古賀茂明氏に、中東情勢についてコメントを求めた。古賀氏はコメントから外れ突然、個人的な事情と意見を述べ始めた。菅官房長官や官邸から物凄いバッシングを受けている。安倍政権は原発輸出大国、武器輸出大国、ギャンブル大国を目指しているが、自然エネルギー大国、平和大国、文化大国にしなければならない。そして、自分で持って来た「I am not ABE（私は安倍ではない）」と書いたフリップを掲げた。二人の間で言い合いがあった。中途半端で、政府寄りのコメントをする解説者が多い中で、古賀氏は歯に衣着せぬ物言いをする稀有の人として、関心を持って聞いていた。古賀氏は今夜限りで、コメンテーターを降板させられるので言いたいことを言っておきたい思いを露わにしていた。翌日、古舘氏は謝罪していた。「電波ジャック」と非難が起こったそうだが、古賀氏の本音の怒りを見せられたシーンであった。久しぶりに聞く緊張感のある会話であった。安倍政権はアベノミクスの景気浮揚政策を掲げ、国民から高い支持を得ているように見える。しかし私は、安倍政権は日本を軍国化する、戦後最も危険な政権であると、古賀氏と同じ批判を抱いている。

泥憲和氏の『安倍首相から「日本」を取り戻せ!!』を読み、深く共感した。泥氏は若くして自衛隊に入り、少年工科大学を経てホーク地对空ミサイル部隊に所属した。現在は弁護士事務所に勤務し、憲法や人種差別などの社会問題と取り組んでいる。安倍政権は集団的自衛権を行使しなければならない8事例を上げているが、泥氏は自衛隊で学び経験したことから、それらは全て、事実とは違い、短絡的で、デタラメな事例であると論破している。個別の自衛権を堅持すべきであると一貫して主張しているが、現在の国際政治の中で、日本は現行の法と装備のままで十分に対応できると言う。米国が国益に反ずるとして痛めつけた国々の数は多い。だから、最もテロの標的にされている。集団的自衛権を行使し、米軍の傘下に入れば、日本もテロの標的にされる。泥氏は、テロは軍事では制圧できないと言う。自衛隊出身の泥氏は自衛隊を政治の道具にされること、何より自衛隊員の命が失われることを危惧している。そして、下記のように書いている。「米軍の軍事戦略と一体化した政治戦略を国の根幹に据える国、それは文字通り植民地国家である。だが私たちが目指すべきなのは、米軍と一蓮托生で戦争にのめり込んでいく日本ではないはずだ。自立した平和戦略を持つ国、それが日本でなくてはならない。そんな国づくりの第一歩が、集団的自衛権を否定することであると私は信じる。」

泥氏は新聞を読み、その背景を軍事的な視点で捉えると、憲法が新しい光を放っていることが分かり、九条の大切さが身に沁みてきたと言う。そして、下記のように書いている。「憲法九条の掲げる理想主義は至高のものだから、現在の国際情勢下において、憲法の理想を直ちに実現できないのは残念なことだが、いま実現できないから将来も実現できないことはない。国が進むべき理想の方向を指し示しているのが憲法であれば、常に現実と憲法との矛盾は避けられない。矛盾を解消するには、憲法を現実を引き寄せるとはではなく、憲法の理想を実現すべく現実を変革しなければならない。」

憲法は国の針路を照らす灯台である。九条は世界を平和に導く灯台である。その光を消して軍国化に向けて急発進し、世界に乗り出したい野望家の安倍首相を認めることはできない。古賀氏が言う「自然エネルギー大国、平和大国、文化大国」を目指したいと思う。